

平成27年9月29日

チャレンジワーク激励

5月の神戸研修で勉強した阪神淡路大震災、死者6,434名、負傷者43,792名、壊れた家639,686棟で、被害総額は約10兆円とされています。

たくさんの方々が学校に避難され、1校でだいたい2,000～3,000人避難したそうです。寒い冬です。怖くて震えるお年寄りがいました。お父さん、お母さんを亡くした小さい子もいました。怪我をした人もいます。毎日2,000人が食事をし、眠り、トイレも使います。

そんな中で活躍したのが、学校の先生と中学生や高校生でした。給食当番を決めてご飯を配り、掃除当番を決めてトイレ掃除をし、お年寄りの話し相手となり、小さい子と遊んであげました。

中学生や高校生って、こんなにすごいんだ。こんなにできるんだ。学校の勉強も大切だけど、社会に出て仕事やボランティアを体験できるようにしたら、きっと、自分の素晴らしさや可能性に気付いて、学校生活をもっと頑張れるようになるだろう。自分を見つめ直して、短所や足りないところにも向かい合えるようになるだろう。こんな風に大人たちが考えて、兵庫県で平成10年、岡山県では平成13年に始まったのがチャレンジワークです。高校では、もっと専門的に仕事をするようになるので、インターンシップと呼んでいます。

今、皆さんはすごく楽しみな気持ちととても不安でドキドキする気持ちと、両方だと思います。でも大丈夫。先輩たちもみんなやってこれました。チャレンジワークを受けてくださった会社の方々は、皆さん温かいです。

楠本先生の言葉、覚えていますか。「楽しみましょう。」「ごちゃごちゃ考えずにやってみましょう。」

しっかりやってきてください。応援しています。